

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590300287		
法人名	株式会社関西サンガ		
事業所名	北ながはまグループホーム		
所在地	滋賀県長浜市神照町460-10		
自己評価作成日	令和元年6月14日	評価結果市町村受理日	令和元年8月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/25/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyCd=2590300287-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	令和元年7月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

北ながはまグループホームでは「自分でやってみたいこと、自分でできること、自分で楽しみたいこと」が実現できるように、職員が一同になって日々の生活の中でサポートを行っています。イベントを行う際には同じ館内にある他の事業所のご利用者や職員と一緒に開催も設けて、グループホーム以外の方と関わりを持てるように取り組んでいます。他の事業所と交流する機会を設けることで、新しい情報を得たり相談できるメリットがあり、馴染みの関係を多く築けるようにサポートしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新興住宅地に位置付けられた、平成30年8月に開設したサービス付き高齢者向け住宅と小規模多機能事業所を併設した3階建てのグループホームです。自治会との交流も盛んに行っており、地域行事への参加も積極的に行っています。事業所の主催するイベントへの地域住民の参加は現在のところありませんが、自治会との関わりから今後期待できる環境になっていると思われます。家庭菜園ではミニトマトやキュウリの栽培も、入居者・職員と一緒にっており、日光浴やちょっとした外出の機会にもなっています。運営に関する職員意見の取入れも多く、事業所で行う運動会の飾りを作ったり、おやつとしてのパフェやタコ焼きを作ったりするなど、入居者と一緒楽しめる機会が多い環境になっています。季節ごとの行事食も工夫をし、普段あまり食べられない方にもたくさん食べていただけるよう工夫をしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族主義をモットーに共に生きるを基本理念として、利用者の満足と笑顔を励みに取り組んでいる。	法人の理念を掲示し朝礼での唱和を行い、理念の周知を行っています。また、申し送りや会議の際にも理念の確認を行い、職員の想いよりも入居者の想いを優先する、入居者本位のケアになるよう徹底しています。	同法人とは言え、事業所によって入居者の状態や地域性は異なっていることから、法人理念を踏まえた事業所独自の理念や方針を掲げ、より具体的な地域密着型サービスの提供ができるよう取り組まれてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧板を通じて地域の情報や交流する機会を設けている。冬季には地域の一員として除雪活動を行ったり、運営推進会議において日々の活動の情報発信を行っている。	自治会へ加入し、回覧板等で地域情報を仕入れています。自治会活動としてのごみ収集や夏祭りへの参加、文化祭への作品出品など、地域との交流を深めています。ボランティアの来園も多く、盆栽や囲碁、パソコン教室なども実施しています。	地域行事への参加や交流はあるものの、事業所行事に地域住民が参加する機会を設けていくことはこれからの課題となっています。広報誌等による地域への情報発信を行い、更に交流を深められることに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者や地域の方より相談あれば、日頃の介護を通じて経験したことをアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の利用状況や取組み事項を行政、地域包括支援センター、自治会代表、民生児童員等の方に参加していただき、助言や意見を頂きサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度の開催をしており、役所職員・地域包括職員・民生児童委員・自治会代表が参加をし、事故報告をはじめ行事案内や防災情報、職員状況の報告を行い、助言をいただいています。運営推進会議での行事報告は、自治会内でもなされており、地域への情報発信となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政、地域包括支援センター、自治会代表、民生児童員等の方に参加していただき、助言や意見交換を行っている。また他の事業所の良い取り組み等の情報をもったり、些細なことでも相談できる関係作りを行っている。	運営推進会議の議事録は、窓口へ出向き手渡しを行うことで、役所職員とのコミュニケーションの場となっています。役所や包括主催の連絡会や、地域ケア会議への出席を積極的に行い、情報収集を行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除についての研修を行っている。身体拘束に関する自己点検シートを行い確認している。	年間研修計画に基づき、身体拘束廃止・虐待防止の研修を実施しています。また3ヶ月に一度の身体拘束廃止委員会の開催を行い、身体拘束や不適切ケアに関する自己点検を定期的に行うことで、職員の認識の確認を行い、必要に応じて指導を行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて高齢者虐待防止の研修を行い虐待防止に努めている。利用者の介護や対応についてひとりで問題を抱えないように、相談しやすい雰囲気作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会が持てるように参考資料を設置している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明を行い、不明な点がないか確認のうえ、サインを頂いている。料金等変更の場合は文書にて説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の面会時に日常の様子を説明し、意見交換を行っている。また意見箱の設置を行うなど、匿名での意見も知ることができるように取り組んでいる。	意見箱は設置しているものの、ほぼ意見は入らないようです。面会時に積極的に日頃の様子を話すようにしています。開設1年未満ということもあり、何を相談してよいかわからない家族もおられることから、過去の生活歴を聞くなどして、話しやすい雰囲気を作っています。また、今後は家族アンケートの実施も検討しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議においては必ず職員が意見を発言できるようにしており、意見を聞く機会を設けている。情報共有やケアのケアの統一ができるように、職員の意見も取り入れながら対応している。	日々の「報・連・相」を徹底するとともに、会議では全員に発言を促すことで、様々な意見を引き出しています。職員発案によるおやつ作りのアイデアやイベント時の作品作り、また個別ケアの意見など積極的に取り入れて支援に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考査(一般職、管理職)の実施や面談を通じて、個々の目標設定や成果を確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップができるように内部研修等、受講する機会を設けている。また資格取得に向けた情報提供や新人オリエンテーションを行うなど人材育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回のグループホーム部会の会議を通じて他の事業所職員と交流する機会があり、業務のことで相談できる場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等を記録に残して情報共有を行い、安心なサービスが提供できるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談を通じて、ご本人やご家族の不安や思いをお聞きし、安心したサービスが提供できるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なニーズを見極めながら、専門職として提案できるようにしている。またサービスの紹介を行うなど、個々のサービスに寄り添った生活ができるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人にできること、したいことはしていただくように(創作活動、洗濯たたみ、洗髪等)取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご本人の近況を家族様に報告している。何でも話しやすい雰囲気作りを行い、気軽に相談できるように工夫している。面会時には外食の機会も提案している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に家族様の面会を通じて交流の機会を設けている。また以前に生活されていた近所の方の面会も継続的にあり、交流の機会が途切れないように取り組んでいる。	お盆や正月の一時帰宅(外泊の方もいる)や、サークル仲間・昔の職場の方・お弟子さんなど、面会の機会があり、馴染みの関係継続ができるよう支援しています。家族協力もあり、入居前からの美容室に通っている方もいます。入居前の生活歴も丁寧に聞き取っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を見守りながら、職員が中に入って良好な関係が築けるように努めている。テーブルや座席の配置にも気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の入院先にご様子を見に伺うなど、これまでの関係を大切にフォローしたことがあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から意向を確認したり、うまく意思を伝えられない方については、本人の生活歴や家族様にお聞きすることにより、意向が反映できるように取り組んでいる。	入居前には自宅や病院などでのヒアリングを丁寧に行い、アセスメントシートにまとめ、計画に活かされています。また日々の関わりの中で新たに知り得たことは、申し送りや介護日誌で共有しています。外出希望も多く、近所の散歩・少人数でのお花見・神社へのお参りなど、一人ひとりの想いに応えるケアの提供を行っています。	アセスメントは丁寧に行っていますが、入居後に知り得た情報などが個別にまとめられるまでには至っていません。現在、認知症介護実践者研修で学んでいる事を活かし、一人ひとりの生活歴や想いを一元的に把握・更新できるよう取り組まれることに期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前に生活歴やご要望をお聞きし、在宅での生活スタイルが継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況を記録に残して、心身状態等の把握に努めている。ご本人のしたいこと、できること等残存機能をフルに活用して生きがいを感じてもらえるように取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の要望も踏まえて、個々に寄り添ったケアが実践できるように多職種間で連携し取り組んでいる。サービス内容や介護量が変化した時には検討プランに反映させるようにしている。	計画は状態変化があった場合等は都度見直しを行い、通常は6ヶ月ごとの見直しを行っています。介護計画のサービス内容に独自の採番を行い、介護記録にも同様の採番を行うことで、計画を意識したサービス提供とその結果が書かれているため、効果的なモニタリングになっています。また計画の見直しの際には、協力医の往診記録に基づいた看護師の意見を反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果について、介護記録に記入し、職員間で情報共有している。ケアプランに連動させて評価しやすいように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向に寄り添えるように、柔軟な対応ができるように努めている。外出等の要望があれば、いつでも対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流ができるように自治会から催しの情報提供を受けている。お正月やお盆の外泊により、それまでの馴染みの方と交流する機会が持てるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向に任せてかかりつけ医の診療が受けられるようにしている。医療機関との協力体制は築いている。緊急時には受診や往診対応も可能である。	入居時に、それまでのかかりつけ医の継続か、協力医へ変更するかの意向確認を丁寧に行っています。専門医やかかりつけ医へは家族協力のもとで受診できるよう支援しています。協力医による往診は毎週あり、健康管理にも配慮されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化があれば看護職に相談し、適切な受診や看護を受けられるように取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはアセスメント兼看護・介護サマリーを提供、退院時には退院カンファレンスに参加しサマリー依頼する等、継続した支援ができるように取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の対応に係る指針を説明している。状態が悪かった場合（食事がとれない、レベル低下）、多職種間で連携し今後の対応について相談できるよう努めている。	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、同意を得ています。現在まで看取りの実績はありませんが、研修計画にターミナルケアを組み込み、今後研修を行っていく予定です。	開所1年未満ということもあり、まだ具体的に看取りに関する研修への取り組みにまでは至っていません。看取りを行う事を前提としているため、急激なレベル低下なども予想されることから、医師・看護師を交えての研修会などを早い段階で実施されてはいかがでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて定期的に訓練や研修を行っている。緊急マニュアルを設置し手順を提示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いの下、年2回消防訓練を実施している。非常災害時の食料や飲料水の備蓄もおこなっている。	消防署立ち合いのもとで、年二回の消防訓練を実施する事になっており、内1回は夜間想定で行うことになっています。自家発電設備を備えており、外部への避難が困難な場合は、3階に避難するようになっています。アルファ米や水の備蓄も数日間分を備えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの生活歴を知るように心掛け、言葉掛けは人により工夫している。更衣時は居室の扉を開放せず、入浴時に脱衣室に入る際、トイレの扉を開ける際にはノックするように対応している。	年間研修計画に基づき、プライバシーの確保についての研修を実施しています。居室での排泄介助・訪室の際のノックと声掛け・更衣の際の声掛けなど、入居者の気持ちを汲んだサービス提供ができるよう配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	趣味や嗜好を考慮し言葉掛けを行うことにより、思いや希望を表現できるように心掛けています。本人の体調も観察しながら支援し、希望を意思表示できない方には生活歴や家族様の意見を参考にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課を優先することなく本人の希望や体調を考慮し支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は複数の中からこの服でよろしいでしょうかとお聞きして着用していただいている。散髪を希望される方については定期的に散髪をしていただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて食器の準備や後片付けをしていただけるように取り組んでいる。外食レクの際には自分で好みのものを選んでいただくように配慮している。	食事は盛り付けまでされた物が配食されており、炊飯や汁物は事業所で作っています。おみそ汁の具を入居者と相談しながら決めたり、ふりかけや佃煮を入居者の好みに合わせたりするなどの取り組みも行っています。おやつや飲み物も好みに合わせて選択できるようにしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録に残して栄養摂取状況を把握している。また栄養士よりカロリー計算された食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後には口腔ケアを実施している。利用者個々に応じた口腔ケアの用品を使用し介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況がわかるように記録に残して排泄パターンを把握するように努めている。失禁により不快にならないように個々に応じた誘導を行っている。	やむを得ないおむつ使用の方が1名いますが、その方以外におむつの使用は居らず、一人ひとりの排泄パターンに合わせて声掛けや誘導をしています。便秘症の方には、体操・水分調整・牛乳の提供などの工夫により、できるだけ下剤に頼らないよう支援しています。トイレの場所をわかりやすく「便所」と貼り紙をするなどの工夫もしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師との連携の下、薬でのコントロールも行っているが、水分摂取や体操参加により便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、入浴したくない希望あれば別の日に変更している。入浴時間についても希望に沿うように取り組んでいる。入浴時はコミュニケーションを図る場として対応には気を使っている。	週3回の入浴を基本とし、寝付けない人へは夕食後に足浴をするなど、臨機応変に対応をしています。入浴後に保湿も兼ねたオイルマッサージを楽しみにしている方もおられます。季節毎に入浴剤を変えるなど、入浴の楽しみにも配慮しています。身体状況によっては、併設のサ高住にある機械浴での対応もしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを把握したうえで、個々に睡眠促しの言葉掛けを行っている。夜間にまとまった睡眠ができるように日中に程良い昼寝の促しを行っている。照明の調整が出来ない方に対しては職員が好みの照明に調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の管理の下、職員が個々の服薬内容を確認できるようにしている。誤薬がないように必ず複数人で確認し、服薬時には読み上げ確認を行い服薬介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション時には個々の特性や趣向に合わせて取り組んでいる。利用者の日々の表情を観察しながら、気分転換に近所を散歩することも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行かないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の希望に応えられるように外出レクの実施や外食レクを行っている。家族様の面会時には外出できる方は外出も行えるようにしている。	日常的に敷地内での日光浴や近隣への散歩に出掛けるようにしています。天気の悪い日には、小規模多機能やサ高住フロアに向き、気分転換を図るなどの取り組みも行っていきます。入居者からの外出希望も多く、季節によっては職員と外食を楽しむ事もあります。遠方への外出は家族協力によって実現できるよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身でお金を管理している利用者はいない。家族様が買って来られたり、希望があれば買い物支援ができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば電話を取り次いでいる。手紙を書かれる利用者に対しては郵便ポストに投函するように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に不快を招かないように清潔にするなど環境整備を行っている。花瓶に花を挿すなど季節感を感じられるように取り組んでいる。	リビングのテーブルには季節ごとの花を飾ったり、創作活動での入居者の作品を飾り付けたりするなど、季節感の演出を行うとともに、華美にならないよう配慮したうえで、入居者が楽しく過ごせるようにしています。好きな歌手の歌をかけることで、穏やかな時間になる様、工夫もしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で休みたい希望あれば職員が誘導している。気の合った利用者が過ごせるようにソファを設置する等、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には馴染みの物を持ってきていただく等の提案も行っている。設置場所の変更の希望あれば変更するように職員がお手伝いしている。	入居時に馴染みの物の持ち込みなどは家族に説明し、家具や椅子を持ち込まれている方もいます。お気に入りの写真や、自分で作った作品を飾るなど、一人ひとりの好みに合うよう入居者と話をしながら部屋作りをしています。また居室の電気も備え付けで、明るさや色も選べるようにしています。	開設間もない事もあり、馴染みの物などの持ち込みが少ないように感じます。家族説明の際には、より丁寧に馴染みの物や使い慣れた物と認知症状の関係などを説明し、協力していただけよう働きかけてみてはいかがでしょうか。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線上に障害となるものを置かないように環境整備を行っている。日々の生活パターンを把握し、トイレが頻回な方はトイレに近い座席に座っていただくように工夫している。		